

ひらつかコツコツプランの見直しについて

1 事業概要

ひらつかコツコツプランは、地球温暖化の原因となっている「温室効果ガス」の1つである二酸化炭素（CO2）を普段の生活の中で減らすための取組メニューを市が提案する行動プランです。

（取組メニュー例：電球をLEDに変更する、冷蔵庫にものをつめこみ過ぎない等）

平成17年度から開始し、平成20年度からは対象を一般家庭から小中学生にも広げ、家庭で出来るエコ活動の取組を推進してきました。平成28年度は、一般家庭1,525世帯、小中学生10,929人の参加がありました。

項目	17年度	18年度	19年度	3年間合計
一般 登録世帯数	1,328	3,096	3,010	7,434
CO2削減量(トン)	68.8	116.4	102.2	287.4

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	12年間合計
一般 登録世帯数	1,174	1,533	1,318	1,253	1,408	1,463	1,548	1,546	1,525	20,202
CO2削減量(トン)	562.3	481.2	595.9	226.2	251.6	252.9	565.1	456	450	4,128.6
小中 登録児童生徒	2,636	2,976	3,785	6,705	6,191	7,045	8,197	9,175	10,929	
事業者 登録事業者数	11	22	41	5	4	1	-	-	-	
一般+小中	3,810	4,509	5,103	7,958	7,599	8,508	9,745	10,721	12,454	

2 課題の検証

(1) 一般家庭編の参加者数の伸び悩み

一般家庭編については、平成26年度をピークに微減の傾向となっています。

メニューは、比較的取り組み易く、多くの市民にとって「すでに習慣的に取り組んでいる」というものが含まれていました。一方、家庭で1ヶ月間取り組んだメニューと取り組んだ月と前年同月の電力使用量を市に報告する形式としており、取組に参加したことが無い市民にとって、参加するハードルが高くなっていたことが考えられます。また、一般家庭編の参加者は、2回目以上の参加者が半数以上となっていました。

(2) かながわエコ10^{テン}トライとの重複性

かながわ地球環境保全推進会議が行う「かながわエコ10^{テン}トライ」と類似しています。

「かながわエコ10^{テン}トライ」は、県民・企業・行政の日頃からの環境配慮行動を10項目90メニューにまとめたもので10個のメニューを選んで「マイエコ10宣言」を行い、実践行動することを促すものです。そのため、趣旨・目的・取組内容（メニュー）が、ひらつかCO2CO2（コツコツ）プランと重複する部分がありました。

(3) チラシ等の周知啓発の効果

学校を通して参加を呼び掛けている小中学生編の用紙回収率は約55%となっていますが、一般家庭編の用紙回収率は、10%未満となっています。環境に配慮した行動を促す取組としては、多くの用紙が余ってしまいました。

3 今後の展開と検討事項等

コツコツプランについては、今後、次のような見直しを検討しています。

(1) 小中学校編

小中学校編は、用紙の回収率が高く、毎年度、取組数が増えています。これは、わかば環境ISOの継続実施等により、市内の小中学校で環境に対する意識が着実に醸成されていることが考えられます。また、小中学生に対する環境教育は、継続的に環境に配慮した取組を実施し、日常生活に根付かせることが必要であると考えことから、小中学校編は継続します。

また、新たな環境基本計画では、コツコツプランの小中学生家庭の参加世帯数の割合を重点施策の目標の1つとすることで、取組を推進します。平成29年度は、新たに保護者のコメント欄を報告書に設けることで、家庭内での取組の広がりを目指しました。今後も取組メニューや報告様式等を見直すことで、小中学校編を拡大実施します。

(2) 一般家庭編

一般家庭編は、平成17年度から継続的に実施しており、多くの市民、事業者に参加の協力を得ている市内に浸透しています。また、メニューは継続的に実施することを求める取組です。上記の課題を踏まえて、コツコツプランの実施について、見直しが必要です。

(ア) 宣言型による新たな参加者の創出

従来は報告型では、一部の市民が毎年参加する傾向が見られました。宣言型にすることにより、多くの市民が取組に参加し易くなり、環境問題への関心を高める契機となることを目指します。

(イ) 市独自の取組メニューの採用

従来はひらつかコツコツプランは、かながわエコ10トライと取組内容が重複しているところがありました。従来はコツコツプランは、広く一般的な環境に配慮した行動のメニューを採用していたことから、今後は本市の特性や実情に沿った市独自の取組メニューを採用し、かながわエコ10トライとの違いを出します。また、クールチョイスひらつかなど既存の普及啓発事業を取組メニューに採用することにより、事業の相乗効果、市が積極的に推進したい事業の周知も目指します。さらに、市独自メニューを毎年度見直しすることにより、市民の環境への関心を高めていきます。

(ウ) 取組メニューの理解度の確認と抽選による参加促進

取り組みの宣言に加えてメニューの内容の理解度を確認することにより、環境に配慮した行動の実行性を高めます。また、宣言及び一定以上の理解度が確認できた場合、抽選で記念品を配付することにより、より多くの市民の参加を促します。

(エ) 取組用紙配布先の見直しと電子化の推進

一般家庭編における報告用紙の回収率は低かったことから、配付方法を見直すとともに、スマートフォンにより簡単にウェブサイトへアクセスできるQRコードなどを積極的に活用することで、事業の電子化を進めます。